

平成29年度「森林環境教育（森林E S D）活動報告・意見交換会」

過去2回の取組成果と 年代をつなぐ森林E S Dの取組の視点

京都教育大学
山下 宏文

なぜ、森林ESDなのか！

森林EDSによって、＜学校教育 社会教育＞
森林環境教育のあり方の共通認識を図る！

「森林環境教育」のとらえ方のいろいろ

- 体験主義：森林での体験そのものが目的
(in) → 感性を育てる
- 知識主義：森林について正しく知ることが目的
(about) → 知識をもつ
- 実践主義：森林で奉仕活動をするのが目的
(for) → 森林整備に参加する
- 資質・能力主義：森林について知識・能力・実践
(in about for) を統合することが目的
* 森林ESD(本来の森林環境教育)

森林ESD：ESDとしての森林環境教育

＜森林ESDの考え方＞

社会的課題への対応

教育的課題への対応

持続可能な開発のための教育(ESD)

持続可能な社会の実現
健全な森林の維持
地球温暖化防止

環境教育

森林環境教育

(各活動)

主体的・対話的で深い学び

ESD能力・態度

- ①批判②未来③他面
- ④伝達⑤協力⑥関連
- ⑦参加
- 育成すべき資質・能力
- ・知識・技能
- ・思考力・判断力・表現力
- ・学びに向かう力・人間性

育成を目指す資質・能力の三つの柱

(中央教育審議会答申 平成28.12.21)

① 何を理解しているか、何ができるか

(生きて働く「知識・技能」の習得)

「個別の事実的な知識のみを指すものではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものを含む」「そうした概念が、現代の社会生活にどう関わってくるかを考えていけるようにするための指導も重要である」*

② 理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)

③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

「主体的に学習に取り組む態度を含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの」「多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど人間性に関するもの」

育成を目指す資質・能力の具体化

(中央教育審議会答申 平成28.12.21)

○教科等において育まれる資質・能力

→各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

○教科等を超えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力

→言語能力 情報活用能力

○現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

- ・健康・安全・食に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力
- ・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
- ・自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力
- ・豊かなスポーツライフを実現する力

持続可能な開発目標(SDGs) — 2015.9 国際社会全体の開発目標 2030年を期限

- ①貧困、②飢餓、③保健、④教育、⑤ジェンダー、⑥水・衛生、⑦エネルギー、⑧成長・雇用、⑨イノベーション、⑩不平等、⑪都市、⑫生産・消費、⑬気候変動、⑭海洋資源、⑮陸上資源、⑯平和、⑰実施手段

①何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)
「そうした概念が、現代の社会生活にどう関わってくるかを考えていけるようにするための指導も重要である」

<注> 生命やエネルギー、民主主義や法の支配といった、各教科等における「概念」と社会生活との結び付けは、各教科等のみならず、教育課程全体を見渡した教科等横断的な取り組みや、総合的な学習の時間や特別活動において各教科等で習得した概念を実生活の課題解決に活用することなどを通じて図られる必要がある。本章3.において述べるような、教科学習と教科等横断的な学習との双方が位置付けられている我が国のカリキュラムは、こうした社会生活との結び付けの観点からも効果的である。
(中教審答申 平成28.12.21)

教育内容の改善・充実(持続可能な社会という視点)

○**持続可能な開発のための教育(ESD)**は、**次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念である**と言えるが、そこで求められている資質・能力(国立教育政策研究所の整理によれば、「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」といった概念の理解、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」などの力)は、総合的な学習の時間で探究的に学習する中で、より確かな力としていくことになると考えられる。

○持続可能な社会の担い手として必要とされる資質・能力を育成するには、**どのようなテーマを学習課題とするかではなく、必要とされる資質・能力を育むことを意識した学習を展開することが重要**である。各学校がESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくに当たり、総合的な学習の時間が中心的な役割を果たしていくことが期待される。
(中教審答申 平成28.12.21)

森林ESD(森林環境教育)への歩み(森林政策の観点から)

1970年代 環境への関心(林業:自然破壊イメージ)

1977年 小学校社会科の内容から「林業」がなくなる

1980年代 森林政策として教育への着目開始

1990年代 森林政策の一環としての森林・林業教育

1994年 「林業普及指導事業検討会報告」

1998年 森林・林業教育センター設置(全国林業改良普及協会)

2000年代 森林政策としての森林環境教育の推進

1999年 「今後の森林の新たな利用の方向」(中央森林審議会)

2001年 「森林・林業基本計画」(森林環境教育の推進)

2010年代 学校教育と協働した森林環境教育への模索

2014年 「企業・NPOと学校・地域をつなぐ森林ESDに関する研究会」
(国土緑化推進機構)

2016年 「森林・林業基本計画」(ESDとしての森林環境教育の推進)

「森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会」の取り組み成果

平成27年度

学校と連携した森林環境教育の推進

→森林ESDの理解促進

平成28年度

学校と連携した森林ESDの取り組み

→森林関係と学校がともに発表・意見交換



平成29年度

幼児段階を含めた学校との密接な連携の模索

→子どもの発達段階に即した森林ESDの検討

「持続可能な社会づくり」の構成概念とESDで重視する能力・態度

『学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究[最終報告書]』 国立教育政策研究所 2012. 3

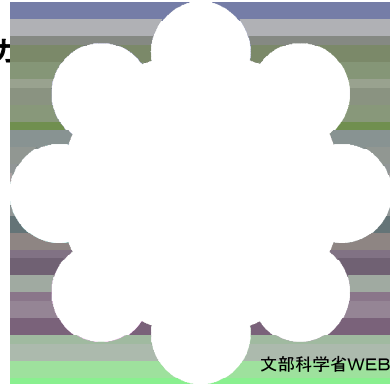
持続可能な社会づくりの構成概念

多様性 相互性 有限性 公平性 連携性 責任性

ESDで重視する能力・態度

- ①批判的に考える力
- ②未来像を予測して計画を立てる力
- ③多面的、総合的に考える力
- ④コミュニケーションを行う力
- ⑤他者と協力する態度
- ⑥つながりを尊重する態度
- ⑦進んで参加する態度 など

①～④ 能力 ⑤～⑦ 態度



森林環境教育(森林ESD)の内容

(教材の条件)

- ①美しい森林を実感できること
- ②樹木や森林の特性がとらえられること
- ③現実の森林の様子が具体的にとらえられること
- ④生活と森林との「かかわり」が具体的にイメージできること
- ⑤森林の維持・管理の方法が具体的にとらえられること
- ⑥日本人と森林とのかかわりが見えること

幼児期の教育と小学校との接続の観点

発達段階に即した森林ESDの展開

○小1プロブレムへの対応

小1プロブレム

- ・集団行動がとれない
- ・授業中坐っていられない
- ・先生の話聞かない

○小1・2 教科「生活科」の新設の趣旨とねらい

- ・低学年児童には具体的な活動を通して思考するという発達上の特徴が見られるので、**直接体験を重視した学習活動を展開**し、意欲的に学習や生活をさせるようにする。
- ・**児童を取り巻く社会環境や自然環境を、自らも構成するものとして一体的にとらえ**、また、そこに生活する立場から、それらに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるようにする。
- ・社会、自然及び自分自身にかかわる学習の過程において、**生活上必要な習慣や技能**を身に付けさせるようにする。
- ・学習や生活の**基礎的な能力や態度の育成**を目指すものであり、それらを通じて自立への基礎を養うこととする。

→ **小学校における学習への接続**